

# 内部寄生虫

内部寄生虫とは、小腸や大腸などの消化管内や、血液内に寄生する虫のことです。寄生虫がいると、痩せてきたり、下痢など様々な症状を引き起こし、また人にも感染する場合もあるので注意が必要です。

寄生虫の種類		体長	寄生部位	症状
線虫類	回虫	2~15cm 位	小腸	腹部膨満・下痢・栄養不良など
	鉤(こう)虫	1~2cm 位	小腸	下痢・体重減少・血便など
	鞭(べん)虫	5~7cm 位	盲腸	下痢・貧血・血便など
条虫類	瓜実(うりざね)条虫	最大 50cm 以上	小腸	下痢・食欲不振・体重減少など
原虫類	コクシジウム	10~20 μm 位	腸粘膜細胞内	下痢・栄養不良(ひどい場合 衰弱)
	ジアルジア	10~20 μm 位	小腸粘膜細胞内	下痢・血便など



鉤虫



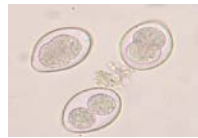
回虫



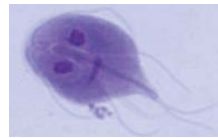
鞭虫



瓜実条虫 (サナダムシ)



コクシジウム



ジアルジア

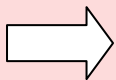
原虫類は、肉眼では見えないので、顕微鏡で確認します。

## 寄生虫の感染経路

➤寄生虫は、種類によって、感染する経路が多少異なります。

### 経口感染

・もっとも多い経路で、感染した便と一緒に排泄された寄生虫の卵をなめたり、便に鼻を近づけたり、また寄生虫の卵や幼虫が食事、食器などにつき、それに動物が口をつけた時、口から入り感染します。



線虫類・原虫類

### 胎盤感染

・感染している妊娠犬の胎盤を通じて子犬にも感染します。また、感染している母犬から授乳した子犬に感染する経乳感染もあります。この場合、重症になりやすいので注意が必要です。



回虫、鉤虫

### ノミによる感染

・動物同士の接触や排泄物から感染するのではなく、皮膚に寄生したノミが口から入ることにより感染します。



条虫類

## 診断法

便検査で寄生虫の虫卵を見つめます。ただ、瓜実条虫に関しては、便検査では分からないので、肛門周りや便に米粒大の体節が付着しているのを飼い主さんが発見し診断する形となります。

## 治療法

駆虫薬で治療します。薬は、錠剤・スポットタイプ・注射などあります。まれに 1 回の駆虫では十分でないこともあるので、投与後 1~2 週間でもう一度、便検査をしましょう。下痢などの症状がある場合は、整腸剤などで対症療法をおこなうこともあります。条虫に対しては、ノミの寄生が見られる場合、その駆除を行うことも大切です。

## 対策法

予防は環境を清潔に保つこと。寄生虫は、高温・乾燥に弱いので身の回り品は熱湯消毒、天日干しなどをするとよいでしょう。散歩道などで他の犬や猫の便などが放置されていたら、その臭いを嗅がせないようにしましょう。また、便は必ず回収するようにして、地域の衛生環境を汚染しないように心がけることも大切です。日頃、下痢などの症状がなくても最低半年に 1 回は便検査をするようにしましょう。